誰もが生きやすい包摂社会をつくる

1

2

認定 NPO 法人 ビッグイシュー基金

第16期 年次報告書

（2022 年 9 月～ 2023 年 8 月）

3

4

5

6

目　次

03 はじめに ── 共同代表からのごあいさつ

04 第 16 期 活動概要

06 つながって生きる ── ホームレスの人、生活困窮者の自活・自立応援プログラム

06 1．当事者への情報提供 ── 『路上脱出・生活 SOS ガイド』をアップデート

07 2．相談機会の提供 ── 健康・住宅・法律などについて、のべ 1059 件の相談

08 3．コロナ禍での緊急支援ネットワークによる活動 ── 緊急宿泊、相談会、申し入れ

08 4．仕事・就業応援プログラム ── 雑誌販売の仕事応援

09 5．スポーツ・文化活動プログラム ── 人とのつながり、いきがいづくりを応援

10 生きやすい社会をととのえる ── 貧困問題解決のネットワークづくりと政策提案・実験的事業

10 1．くらしの基盤をつくる ── 住宅問題の実験的事業

12 2．依存症問題の研究・啓発 ── ギャンブル障害の調査・提案事業

12 3．新しい仕事をつくる ── 「夜のパン屋さん」との連携

13 市民が社会をつくる ── ボランティア活動と市民参加

13 1．ボランティア参加

13 2．広報・メディア掲載

14 3．寄付参加プログラム ── 市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付

15 4．ありがとうございました ── 市民・組織・団体・企業のご協力とご参加

16 決算報告

18 社会を変えるのはあなたの寄付です ── 会員・寄付の制度について

19 誰もが生きやすい包摂社会をつくる ── ビッグイシュー基金とは

認定NPO法人
ビッグイシュー基金
共同代表　稲葉 剛

おかげさまで、今年、ビッグイシュー基金は設立16周年を迎えることができました。基金の母体である有限会社ビッグイシュー日本が発行する「ビッグイシュー日本版」は創刊20周年となりました。

この間、私たちの社会は、世界金融危機、東日本大震災、コロナ禍など、「数十年に一度」と言われる危機に何度も見舞われてきました。そして今、人類史上最大の危機とも言われる気候変動が進行する時代を私たちは生きています。

危機にあって最も打撃を受けるのは、ホームレス状態にある人々など、社会的に脆弱な立場にある人たちです。例えば、観測史上、最も暑い夏となった今夏の猛暑は、路上で暮らす人たちの健康や仕事に無視できない影響を与えました。

私たちは、苦境のただ中で生きる当事者と力を合わせ、心を寄せてくださる多くの市民とともに、危機を乗り越える道を模索してきました。その試行錯誤の記録として、本報告書をお読みいただけるとありがたいです。

認定NPO法人
ビッグイシュー基金
共同代表　枝元 なほみ

2023年、ビッグイシュー基金は17年目を迎えました。いつも応援いただき、本当にありがとうございます。

私事ですが、今年1年は病気との闘いに明け暮れました。1月、持病の間質性肺炎をコロナの罹患により悪化させ、酸素ボンベと共に暮らしています。

病気と向き合う中で、いろいろな人がそれぞれの事情を抱えて生きていくのだと改めて学びました。〈助けて〉や〈任せた〉が言えるようになると、たくさんの人が助けてくれることを知りました。病気の身でも、できることをすることで似た境遇の人の励みになれるのだとわかりました。その〈励ます〉ことや〈共に生きていく〉ことこそが自分の仕事なのだと思えて、逆に励まされました。

病人、老人、能力やお金のあるなしに関係なく、それぞれできることに誇りを持って参加する、それが私たちの目指す方向かもしれないと、灯りをともしてもらった気分です。温かな居場所をつくるビッグイシューのこれからを応援くださいますよう、心よりお願いします。

認定NPO法人
ビッグイシュー基金
共同代表　米本 昌平

いつも温かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。ホームレス状態は、社会のもっとも弱い部分であり、そのため、社会の変化が敏感に反映されます。未来がたいへん見えにくくなっている今、日々直面する課題の細部に、社会の変化の兆候が表れていないか、感度を良くしていかなければなりません。

枝元共同代表という、アイデアと意欲に満ちあふれる仲間によって、「夜のパン屋さん」という新しい仕事が軌道に乗り、これをきっかけに、さまざまな仕事づくりを試してみる段階に入っています。これらは、ビッグイシューの発刊に続く、新しい仕事づくりへの挑戦です。うまくいくか、ということ以前に、このような試みに挑むことで、さまざまなノウハウが蓄積され、人材と人脈が育っていくことこそが大切だと思います。

そのような中から、新しい見方が生まれれば、できれば報告書の形にまとめ、小なりといえども、手づくりのシンクタンクの機能を維持していきたいと思います。

第16期活動概要

2023年の全国の野宿者数は、過去最少の3065人（厚労省調査）――2003年の同調査では2万5296人のため、この20年間で約9割減少しています。これは、生活保護など公的制度の利用が進んだのが一因です。特に、長引くコロナ禍や物価高騰の影響の中で、2022年度の全国の生活保護申請件数は23万6935件と3年連続増加し、また生活困窮者自立支援法の家賃補助事業「住居確保給付金」では2万4272件と、コロナ前の5倍近い数が申請されています。このように、困窮する人や住まいを失いそうな人などの公的制度の利用が増加したのは、基金が発行する『路上脱出・生活SOSガイド』の配布・拡散や各地での相談会の開催など、市民が行政や当事者に働きかけた結果だと考えています。

基金では2020年以降、民間支援団体や個人支援者と連携して、団体の枠組を超えた取り組みをするための実践的なネットワークをつくり活動してきました。第16期もその基盤を活かして、民間借家や公営住宅などの空き室を活用した一時居所5室の新設や、住まいを失いそうな111世帯への家賃補助等の実験事業「おうちプロジェクト2」、『路上脱出・生活SOSガイド』東京23区編の改訂などの事業に取り組みました。また「夜のパン屋さん」との連携を通じ、基金での新たな仕事づくり事業に向けた準備作業も進めました。これらの活動は、多くの市民ボランティアや、6500人を超える寄付参加者に支えられ進めることができました。

誰もが生きやすい社会を目指して「3本柱の応援事業」

詳細は 06p.～

1．つながって生きる――ホームレスの人、生活困窮者の自活・自立応援プログラム

当事者への情報提供では、2022年8月に作成した『路上脱出・生活SOSガイド』大阪編（改訂第3版）の配布を継続しました。また2023年8月には『路上脱出・生活SOSガイド』東京23区編の改訂第5版を7000部発行。基金HP掲載の「WEB版」にはPCやスマートフォンから、無料で相談窓口に電話をかけられる「ボイチャ相談」の機能を実装しました。冊子版は大阪で2146部、東京で2405部を毎月の夜回り活動や、市民の配布協力を得て配布しました。

生活自立応援事業では、健康、住宅、法律、家計管理などについて、大阪・東京あわせて、のべ1059件の相談がありました。年齢は21歳～90歳、女性からの相談（111件）、外国籍の人からの相談も複数件ありました。これらの相談に、民間支援団体、行政機関、医療・法律などの専門家と連携して、問題解決に向けたサポートを提供しました。

路上生活者や経験者、ボランティアが集い、仕事やくらしを話し合う月例の「定例サロン」には、のべ342人が参加。また、2022年12月には「第13回大阪ホームレスクリスマスパーティ」を開き、全国の当事者や支援者、市民80人がオンラインで交流しました。また、越年越冬の取り組みでは、年末年始に活動する全国9つの連携団体に合計18万円のカンパを行いました。

仕事・就業応援では、雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売の仕事を、（有）ビッグイシュー日本と協働し応援しました。寄付品のマスクや食品、衣料品などの提供のほか、ヘアカットプログラムの提供、猛暑時は熱中症対策グッズやドリンクも提供しました。

スポーツ･文化活動では、プロボノや他団体の協力を得た講談部、ダンスグループ「新人Hソケリッサ!」、ホームレスサッカーなどの活動のほか、当事者主導の歩こう会、家庭菜園部、鉄道部、茶道部などの活動を広報や活動場所の確保などで応援しました。

現場での活動と並行し、都内の民間支援団体・個人でネットワークをつくり、2022 年 12 月、東京都に対して年末年始に住まいがない人に向けた一時宿泊所の用意を求めました。また大阪では、在阪の民間支援団体ネットワーク「新型コロナ・住まいとくらし緊急サポートプロジェクトOSAKA」に継続参加し、2022 年 10 月、2023 年1月、8月と3回の食料配布＆相談会を開催。計 972 人に食料品や生活用品などを手渡しました。

詳細は 10p.~

2．生きやすい社会をととのえる── 貧困問題解決のネットワークづくりと政策提案・実験的事業

住宅問題を考えるための実験事業として、第 16 期、大阪・東京で空き家・空き室を活用した借り上げ住宅「ステップハウス」10 室と、短期利用シェルター４室を運用しました。大阪では、兵庫県尼崎市･生活協同組合コープこうべ･阪神間の民間支援団体が協働して尼崎市営住宅の空き室を活用する「あまがさき住環境支援事業」に継続参加し、住まいのない人が低廉な家賃で住める一時居所「あまやどりハウス」を８室に増室。第 16 期は７人が利用しました。

また、第 14 期実施の「おうちプロジェクト」の報告書を 3000 部発行し、無料で配布しました。そして、この続編として、「おうちプロジェクト２」を実施。長引くコロナ禍の影響で住まいを失いそうな人のホームレス化予防を目的に、111 世帯に約 1152 万円の家賃補助などを行いました。

さらに、基金での「新しい仕事づくり」を考えるために、(有) ビッグイシュー日本の事業「夜のパン屋さん」との連携を深めました。2022 年 11 月から毎月開催されている「夜パンＢ＆Ｂカフェ」を設営や広報、スタッフの派遣などで応援しました。

詳細は 13p.~

3．市民が社会をつくる── ボランティア活動と市民参加

ボランティア希望者には月例で「オンライン説明会」を開き、第 16 期は 88 人の参加がありました。累計の登録者数は東京 861 人、大阪 554 人、合計 1415 人でした。

市民応援会員は 432 人、企業などの会員は３件。寄付金控除のある５つの寄付メニューへの参加者は 1597 人、任意寄付は 4198 人、その他寄付（チャリボンなど）294 人、遺贈・大口寄付２人となりました。この結果、市民応援会員を含む寄付参加者はのべ 6526 人、会費＆寄付額は１億 658 万円となりました。

広報では、基金だよりや基金通信「希望前線」を各 24 回発行。このほか各種ＳＮＳや「Google 広告」なども活用しました。またメディアでは、「新人Hソケリッサ！」や、行政への申し入れ、ギャンブル障害問題の取り組みなどが取り上げられました。

つながって生きる
── ホームレスの人、生活困窮者の自活・自立応援プログラム

1．当事者への情報提供

■『路上脱出・生活ＳＯＳガイド』の配布を継続

＜大阪編＞

第 16 期配布数　**2146 部**

累計配布数　**4 万 4914 部**

＜東京 23 区編＞

第 16 期配布数　**2405 部**

累計配布数　**9 万 9652 部**

2009 年、路上で生活する人が今日を生きのびるために利用できる支援情報をまとめた『路上脱出ガイド』を発行しました。その後、16 年に依存症やＤＶ、法律や労働相談など、ホームレス状態の人以外も参照できる『路上脱出･生活ＳＯＳガイド』として再編し、これまで札幌、東京、名古屋、京都、大阪、福岡、熊本の７地域で発行されました。大阪編・東京 23 区編以外は、各地で連携する支援ネットワーク「ビッグイシュー・サポーターズ」（13p. 参照）などが独自に編集・発行し、基金は印刷費などの負担や広報協力をしています。

第 16 期は、定例の夜回りなどでの配布に加え、協働団体、図書館、市民から送付依頼があり、大阪編 2146 部、東京 23 区編 2405 部を無料配布し、2009 年から累計で大阪編４万 4914 部、東京 23 区編９万 9652 部を配布しました。また、昨年１年間の基金ＨＰから閲覧可能なＷＥＢ版ガイドの全ページの閲覧数（ページビュー数）の合計は 23 万 2703 回でした。

■『路上脱出・生活ＳＯＳガイド』東京 23 区編の改訂

2023 年８月 31 日に東京 23 区編を改訂し、第５版を発行しました。今回の改訂では女性や依存症の方をサポートする８団体を新たに掲載したほか、各団体の詳しい情報が参照できるＱＲコードも掲載しました。

また、同時にＷＥＢ版ガイドもリニューアルを行い、電話が止まっていても端末を Wi-Fi にさえ繋げることが出来れば、サイト上のアイコンをタップするだけでそのまま各相談窓口へ無料通話できる「ボイチャ相談」の機能などを取り入れました。

（システム提供：ＮＰＯ法人トイミッケ https://toimikke.org/ ）

※冊子版は、送料のみで必要冊数をお送りしています。基金ＨＰからご請求ください。

2．相談機会の提供

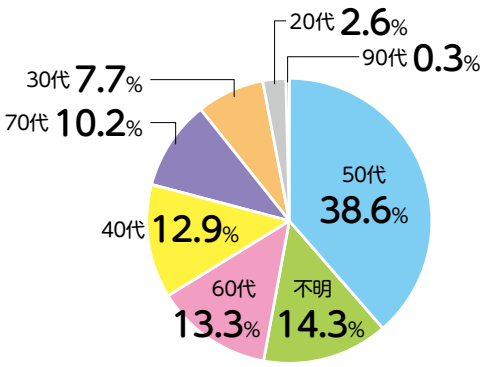
■ 大阪で 302 件、東京で 757 件の相談

ホームレス当事者や生活に困窮する人からの健康、住宅、法律、家計管理などの困りごとについて相談を受け、専門家や民間支援団体、行政機関と連携してその解決をサポートしました。第 16 期は大阪で 302 件、東京で 757 件の相談がありました。新型コロナの流行以降、基金への相談件数は第 14 期 1739 件、第 15 期 1337 件、第 16 期 1059 件と高止まりしています。相談者の年齢は 21 歳～ 90 歳と幅広く、女性からの相談も 111 件ありました。

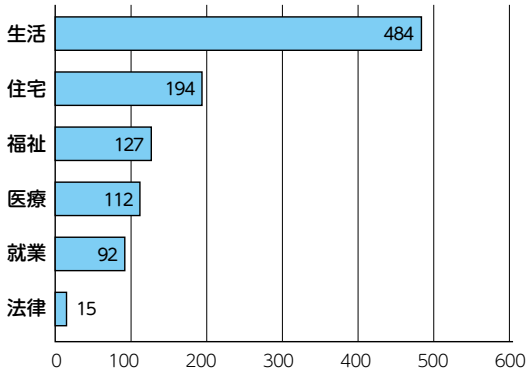
相談件数	のべ **1059** 件
福祉、住宅、法律などの同行支援	のべ **108** 件
健康相談会参加者	のべ **149** 人
借り上げシェルターの利用者	のべ **117** 人

※大阪：大阪府保険医協会、歯科保健研究会、プロボノ鍼灸師の協力による　東京：新宿保健医療班の協力による

相談者の年齢分布



相談内容（複数回答）



■ 他団体との協働プロジェクトによる基金でのサポート

コロナ禍の中で、複数の民間支援団体でネットワークをつくって当事者をサポートするプログラムが広がりました。今夜寝るところがない人に緊急宿泊費を提供する「東京アンブレラ基金」（事務局：一般社団法人つくろい東京ファンド）や「新型コロナ･住まいとくらしサポートプロジェクト OSAKA」（事務局：認定 NPO 法人釜ヶ崎支援機構）などです。また、住まいや身分証がない人への携帯電話貸与事業「つながる電話」にも継続参加しました。

「東京アンブレラ基金」による宿泊費の提供	のべ **25** 人
「つながる電話プロジェクト」による電話利用サポート	**10** 人
「新型コロナ・住まいとくらし緊急サポートプロジェクト OSAKA」による緊急宿泊提供	**12** 人

3．コロナ禍での緊急支援ネットワークによる活動

コロナ禍以降に緊急的に立ち上がった民間支援団体ネットワークに継続参加し、食料配布や相談会の開催に協力しました。大阪では、基金を含む 22 団体による「新型コロナ・住まいとくらし緊急サポートプロジェクト OSAKA」が、2022 年 10 月、2023 年 1 月、8 月に食料配布および相談会を開き、計 972 人に食料を配布、87 人の相談に応じました。同プロジェクトは当初、コロナ禍での緊急的な活動として始まりましたが、緊急宿泊の提供と相談会の活動を継続するために「住まいとくらし SOS おおさか」として任意団体化しました。東京では 12 月、基金を含む民間の 14 団体で、東京都に対して年末年始に住まいがない人の一時宿泊場所確保など、生活困窮者の支援策強化についての緊急要請を行いました。

また 2023 年 2 月から 6 月にかけて実施した「おうちプロジェクト2」では関東・関西で活動する 14 の民間支援団体と協働し、住まいを失った人や失いそうな人の住居費を支援しました（11p. 参照）。

在阪の支援団体で 546 人に食料配布（2022 年 10 月）

都内 14 団体での東京都への申し入れ

4．仕事・就業応援プログラム

■ 雑誌『ビッグイシュー日本版』販売者の応援事業

路上生活をする人や生活に困窮する人が、すぐに始められる雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売の仕事を（有）ビッグイシュー日本と連携して応援しました。『路上脱出・生活ＳＯＳガイド』や基金ＨＰなどでの雑誌販売の仕事の周知、寄付品のマスクや消毒液、食品、衣料品などの随時配布のほか、健康管理のための体温計、夏場には熱中症対策グッズやスポーツドリンクも提供しました。

■ 就業応援の連携事業

雑誌販売以外の仕事を希望する人には、連携するＮＰＯや行政などの就労支援窓口や施設について情報提供を行い、必要な時には見学や申し込みに同行しました。大阪では、仕事に関する悩みなどを傾聴し、問題整理のサポートをしてくれるコーチングのプロボノによるセッションを７回開催し、のべ７人が参加しました。東京では、プロボノの美容師の協力のもと、身だしなみを整えるヘアカットプログラムを５回開催し、のべ 19 人が参加しました。

■ ビッグイシュー卒業生との関わり

住まいや仕事を得て路上を脱出したビッグイシューの卒業生とは、年賀状のやりとりや、定例サロン、クラブ活動への参加を呼びかけてつながり続ける機会をつくりました。お茶を飲みながら日々の生活のことなどを話す「アフター・ティー」には、大阪でのべ 17 人、東京でのべ6人が参加しました。

5．スポーツ・文化活動プログラム

ホームレス状態の人が生きるよろこびを見つけ、仲間とともに活動できる当事者主体のスポーツ・文化活動を広報や活動場所の確保などで応援しました。第 16 期は新たに「茶道部」「鉄道部」などが活動を開始。長期化する新型コロナの影響で、活動の縮小が余儀なくされる期間が続きましたが、感染予防をしながら継続できるよう、参加メンバー同士が随時話し合って活動しました。

「茶道部」の様子

■ 第16 期のクラブ活動一覧

部活動	活動内容	第 16 期の主な活動実績
ホームレスサッカー・野武士ジャパン	NPO 法人ダイバーシティサッカー協会と連携した東京・大阪での月２回の定例練習会の開催や、ダイバーシティリーグへの参加	●定例練習会のべ 407 人参加（全 23 回） ●ダイバーシティリーグへの参加９回
講談部	大阪で講談師の四代目玉田玉秀斎さんと玉田玉山さんからの稽古を受け、毎月１回「ビッグイシュー講談会」で講談を披露する	●ビッグイシュー講談会 12 回開催 ●雑誌『ビッグイシュー日本版』の創刊 20 周年イベントで講談を披露
歩こう会	ビッグイシュー誌販売の仕事で生計を立てる濱田さんが主催する街歩きクラブ	●歩こう会９回開催 ●参加者数のべ 52 人
ボウリング同好会	ボウリング好きの当事者の提案により、不定期で開催するボウリングクラブ	●ボウリング３回実施 ●参加者数のべ 19 人
ダンスチーム・新人Ｈソケリッサ！	路上生活経験者によるダンスパフォーマンスグループ。ダンサー・振付家・アオキカク代表のアオキ裕キさんのサポートのもとで、月に数回の練習、不定期での公演会、ワークショップ参加などの活動を継続して行う	●横浜 / 東京ツアー・報告会 ●寿町でのワークショップ　など
家庭菜園部	東京事務所のベランダにて、野菜や花の栽培・お世話を各自来所のタイミングで行う。毎月最終月曜日にミーティング開催	●定例ミーティング 10 回開催 ●新宿御苑にて植物観察 など ●参加者数のべ 55 人
鉄道部	鉄道好きの当事者が集まり、鉄道イベントへの参加などの活動を楽しむ	●活動２回 ●鉄道博物館見学など ●参加者数のべ８人
茶道部	月に１～２回稽古を重ね、当事者同士やボランティアへ呈茶をする	●稽古７回実施 ●雑誌『ビッグイシュー日本版』の創刊 20 周年イベントで参加者へ呈茶 ●参加者数のべ 55 人
俳句の会	東京事務所常設の俳句ポストへ投句。感想交流や掲示を行う。俳句だけでなく川柳も募集	●俳句コンクールへの応募 ●参加者数のべ５人

生きやすい社会をととのえる
── 貧困問題解決のネットワークづくりと政策提案・実験的事業

基金では、現場の活動で見えてきた社会課題を考えるために、実験的事業や調査・提案の活動に取り組み、これまで 18 冊の報告書を作成してきました。第 16 期は大阪での市営住宅の空き室を活用した一時居所「あまやどりハウス」を8室に増室。ホームレス化予防のための家賃補助の実験事業「おうちプロジェクト2」の実施、東京での「夜のパン屋さん」との連携など、これまでの活動をさらに深め、展開しました。

1．くらしの基盤をつくる ── 住宅問題の実験的事業

■ 民間空き室を活用した実験的事業 ── シェルター・ステップハウス事業

社会に増え続ける「空き家」と住宅困窮者のマッチングを模索する住宅問題の実験事業では、東京・大阪で協力的な家主の方からアパートの空き室提供を受けて「ステップハウス」2室、シェルター4室を運用しました。大阪のステップハウス「悟楽堂」では、月額利用料1万 5000 円のうち1万円が利用者の積み立てになり、1年の期間で次のステップへの費用を貯めることができます。第 16 期は 2 人が利用しました。東京では 12 月に新たに「みんみんシェルター」を設け、のべ 8 件の利用がありました。

「悟楽堂」利用者の清掃活動の様子

体調不良の人などが利用する「みんみんシェルター」（東京）

■一時居所「あまやどりハウス」を増室 ── 市営住宅の空き室を活用

兵庫県尼崎市・生活協同組合コープこうべ・阪神間の民間支援団体が協働して尼崎市営住宅の空き室を活用する「あまがさき住環境支援事業」に継続参加し、ホームレス状態の人が利用できる低家賃住宅「あまやどりハウス」を8室、設けています。月額 6500 円の利用料と自治会費、水道光熱費を負担して、第 16 期は計8室を7人が利用しました。利用者は共用部の清掃など自治会活動に参加するほか、公営住宅の目的外使用を推進したいと考える研究者、関係者の視察やインタビューにも対応しました。

自炊が得意な「あまやどりハウス」利用者 S さんのキッチン

広々とした間取りで快適なおうち時間

■「おうちプロジェクト」――賃貸住宅の初期費用補助事業、報告書を発行

2023 年6月、『おうちプロジェクト報告書――コロナ困窮者の住宅確保応援から見えたこと』（A4 版 /16p.）を 3000 部発行しました。この事業では民間財団の助成金を活用し、東京・大阪の 17 の民間支援団体と協働して、ホームレス状態の人や新型コロナの影響で住まいを失った人、失いそうな人たち計 207 世帯（237 人）に賃貸住宅の初期費用など総額約 4300 万円を提供して住宅確保を応援しました（2020 年8月～ 2021 年8月実施）。

利用者の７割以上の人が新型コロナによる仕事への影響（失業や減収）を受けており、約７割の人が申し込み時点ですでに安定した住まいを失った状態でした。また利用者の収入に対する住居費の負担割合が非常に高く、特に生活保護など公的支援の利用にハードルがある人の住居をどう維持するか、ということが課題として見えてきました。

おうちプロジェクト報告書表紙

※ PDF 版はこちらからご覧ください。

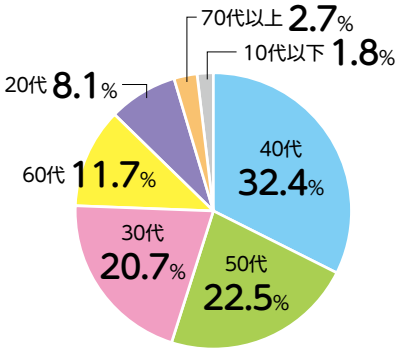
■「おうちプロジェクト２」――ホームレス化予防のための家賃補助実験事業

コロナ禍が長期化する中、第 16 期には公的支援を利用しにくい人の路上化予防と自活の応援を目的にした、家賃補助の実験事業「おうちプロジェクト２」を実施しました。基金が事務局となり、14 の民間支援団体と協働して、2023 年２月から６月の期間に、103 世帯の家賃と８世帯の初期費用の支払いをサポートし、総額約 1152 万円を提供しました。

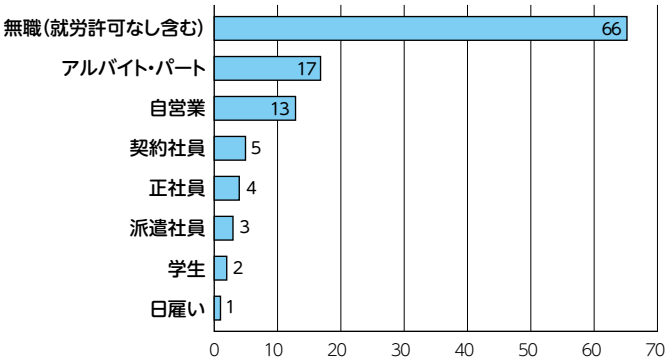
利用申込者は 40 代（32%）、50 代（23%）が多く（図１）、申込時の雇用形態は無職（就労許可がない人含む）の人が約６割を占めました（図２）。また、利用者の 76%は外国籍の人で、その約半数が出入国在留管理庁（入管）の収容施設から仮放免中の人でした。

この事業を通じて、今日本国内において、在留資格が不安定な外国籍の人がホームレス化していること、また就労を禁じられている彼・彼女らの生活を民間支援団体がサポートしている状況が見えてきました。基金では現在、このことを裏付け、緊急の支援方策を考えるために複数の民間支援団体と協働で仮放免中の人の居住の状況を聞く郵送アンケート調査にも着手しています。

おうち PJ2 利用者の年齢（図 1）



おうち PJ2 利用者の雇用形態（図２）



2．依存症問題の研究・啓発── ギャンブル障害の調査・提案事業

ホームレス化の原因になり、路上脱出を阻む壁にもなる「ギャンブル障害」の問題。基金では2013年からこの問題に関する研究会を設け、4冊の報告書を発行してきました。第16期は、2019年に京都大学大学院医学研究科との共同研究で実施した、大阪市のシェルター利用者にギャンブルとのかかわりを聞いた調査報告書『ホームレス状態とギャンブル障害―121人のヒアリングから』などを、継続して無料配布しました。また2022年6月にはこの調査結果が「Prevalence of Gambling Disorder and Its Correlates among Homeless Men in Osaka city, Japan」として学術誌『Journal of Gambling Studies』に掲載されました。この内容を、2023年8月に韓国・仁川で開かれた第8回国際行動嗜癖学会（8th International Conference on Behavioral Addictions）で、口頭発表しました。

3．新しい仕事をつくる── 「夜のパン屋さん」との連携

「若者ホームレス」に関する調査･提案の活動の中で、社会的な不利･困難を抱える若者の存在と、彼･彼女らが多様に働くことのできる「仕事」の場の不足が見えてきました。基金ではこうした仕事の場をつくるために、新しいアイデアで社会問題の解決に挑戦すると同時に、そこを仕事・雇用の場にもする「シビックエコノミー」の試みに注目してきました。第16期は、(有)ビッグイシュー日本の事業「夜のパン屋さん」の活動現場にスタッフを派遣して連携を深めました。さらに2022年11月からは、毎月第2土曜日にけやきの森の季楽堂（東京都練馬区）で開かれた「夜パンB＆Bカフェ」を、設営や広報などでも応援しました。

12月のカフェには350人が来場

★「夜のパン屋さん」とは？

「夜のパン屋さん」は、ホームレス状態や生活に困っている人に雑誌の販売という「すぐにできる仕事(収入)」を提供する(有)ビッグイシュー日本が、コロナ禍での新たな仕事づくりの一つとして、2020年10月から開始した事業です。その日に売れ残ってしまいそうな商品をパン屋さんから買い取り販売することで、フードロスの問題と仕事づくりのマッチング解決を目指す取り組みです。現在、27軒のパン屋さんから協力を得て、都内3ヵ所に販売場所を開いています（2023年10月時点）。このプロジェクトのリーダーとして、NPO法人ビッグイシュー基金共同代表で料理研究家の枝元なほみが参加しています。

ビッグイシュー基金がこれまで発行した各種の発行物・レポートは、送料のみでお送りできます。各内容やPDF版は、右のQRコードからご覧いただけます。

市民が社会をつくる
――ボランティア活動と市民参加

1．ボランティア参加

ホームレス問題や貧困の問題、具体的なボランティア活動について知ってもらうため、「ボランティア説明会」を毎月１回オンラインで開き、88 人の参加がありました。第 16 期は大阪で９人、東京で 43 人がボランティアに登録し、登録者数は累計で 1415 人となりました。長期化するコロナ禍の影響により、多くの人が集まって活動することが難しい状況が続きましたが、感染対策や人数制限などの工夫をしながら活動の場をつくりました。クラブ活動への参加や会報誌の発送作業、ヘアカットやコーチング、健康相談会に加えて、オンラインでの新たな活動の場としてボランティアメンバーと活動紹介動画の企画･制作にも取り組んでいます。また、札幌、仙台、立川、横浜、名古屋、京都、岡山、福岡、熊本、鹿児島などの各地のサポーターは 41 人でした。第 16 期は各地のサポーターとのオンライン座談会を開き、それぞれの地域の路上の状況や、困りごとについて共有する場をつくりました。

※「ボランティア説明会」への参加をご希望の方は、https://bigissue.or.jp/event/、
または右の QR コードよりお申し込みください。

2．広報・メディア掲載

■広報

基金だよりや基金通信「希望前線」（ビッグイシュー誌掲載）を各 24 回発行しました。また、基金の HP での広報や、Facebook、X（旧 Twitter）などＳＮＳでの発信、「PRTimes」でのプレスリリース、「Google 広告」なども活用しました。マスメディアでも、『路上脱出・生活ＳＯＳガイド』や「新人Ｈソケリッサ！」の活動などが取り上げられました。

たくさんの方に、SNS での拡散等を通じて、基金の各種事業の周知・広報にご協力いただきました。困っている人に情報を届けていく活動へのご参加、ありがとうございました。

■メディア掲載

（新聞、テレビ、雑誌、機関紙、ＷＥＢメディア、ラジオなど）

東京新聞／ TBS ／ NHK 総合／静岡新聞／ BuzzFeed ／オルタナ S ／ TOKYO FM ／大阪市ボランティア・市民活動センター情報誌『COMVO』／ PRESIDENT Online

◇上記メディアに取り上げられた内容

基金の活動／路上脱出・生活ＳＯＳガイド／新人Ｈソケリッサ！／夜のパン屋さん／都への要望書提出／ギャンブル依存症問題に関する報告書

※それぞれの記事は、https://bigissue.or.jp/category/media
または右のＱＲコードよりアクセスください。

3．寄付参加プログラム――市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付

市民応援会員と寄付参加者はのべ 6526 人、合計金額は 1億 658 万円となりました。前 15 期との比較では、寄付参加者のべ人数は 434 人減少、寄付金額は 2289 万円増加し、過去最多の寄付額となりました。これは、多くのみなさんからの継続寄付に加えて、法人より 4000 万円弱の高額寄付を受け入れたためです。市民応援会員や寄付といった、目的や使途を限定される補助金などとは違う、縛られない資金に支えられて、コロナ禍などの社会不安な状況においても活動を継続し、新たな事業にも挑戦できました。寄付参加をいただいたみなさんに、あらためて心からの感謝とお礼を申し上げます。2023 年 1 月下旬には、寄付金控除の申告に必要な 2022 年度分の領収書を 1570 人にお送りし、所得税からの寄付者への返金額合計は約 1839 万円となりました。

■ 会員・寄付者の内訳

- **市民応援会員**

  にっこり（353 人）／ひとり立ち（79 人）計 432 人（会費金額 925 万円）／企業･団体サポーター計3件（会費金額 175 万円）　会費金額計 1100 万円

- **メニュー寄付**

  出会い（682 人）／つながりウォーク（580 人）／実践応援ラン（139 人）／社会包摂マラソン（125 人）／市民信頼社会（71 人）計 1597人（寄付金額計 2534 万円）

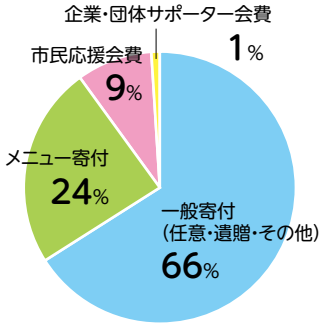
- **任意寄付**

  任意寄付は 4198 人、遺贈寄付は2人、その他寄付（チャリボンなど）は 294 人、計 4494 人（寄付金額計 7024 万円）

- **マンスリー寄付**

  マンスリー寄付参加者は 2023 年 8 月時点で 366 人（寄付金額計 1122 万円）

会費・寄付収入の内訳



■ 物品寄付

基金HPやSNSを活用して寄付募集をしました。Amazon ほしい物リストを通じて、食料品や熱中症対策グッズなどの支援物資の寄付も呼びかけました。継続的に応援いただいている企業や連携団体、たくさんの市民の方から、食料品や衣料品、生活用品などを寄贈いただき、今期は 732 件(大阪 265 件、東京 467 件）の物品寄付が届きました。寄付物品は、夜回りなどで出会う人や、事務所を訪れる相談者に手渡ししました。

■古本やTシャツで「ホームレスの自立を支援」―チャリボン・JAMMIN

書籍などを(株）バリューブックスに送ることで、買い取り相当額分をNPOに寄付できる仕組みの「チャリボン」を通じて、2013 年4月から 2023 年8月末までの間に 4757人から 1035 万 2211 円分のご寄付がありました。お申し込みなどの詳細は、チャリボンHP（https://www.charibon.jp/）をご覧ください。また、チャリティ専門のアパレルブランド「JAMMIN」が、基金の 15 周年を記念しデザインしたTシャツを 2022 年 11 月 14 日から1週間販売。178 人にアイテムを購入いただき、19 万 2930 円のチャリティーが集まりました。

4．ありがとうございました――市民・組織・団体・企業のご協力とご参加

【助成金】

公益財団法人パブリックリソース財団／東京アンブレラ基金（一般社団法人つくろい東京ファンド）

【企業・団体寄付】

一般社団法人東京アメリカンクラブ／八王子市つるた勝巳税理士事務所／税理士法人さくら／企業組合ワーカーズ・コレクティブ企画編集・のもの／宗教法人カトリック・ノートルダム教育修道女会／日本ライフレイ株式会社／三菱 UFJ 銀行／ティグレ連合会／キーン・ジャパン合同会社／仏教を初歩英語で学び実践するサンガの会／合同会社ウィリディス MEP エンジニアリング／株式会社イー・エヌ・アイ／柏田内科クリニック／株式会社デルタエンジニアリング／ Brunswick Group 株式会社／ウミネコマーケット／シアターキノ／カラオケ喫茶伊織里／一般社団法人日本フラメンコ協会／有限会社チェンジ・エージェント／ ES Global Japan 株式会社／新宿ダイアログ／タバブックス／合同会社 NiwaMori

【寄付サイトからの寄付】

公益財団法人パブリックリソース財団（ギブワン、https://giveone.net/）
株式会社バリューブックス（チャリボン、https://www.charibon.jp/）
JAMMIN 合同会社（チャリティ T シャツ制作・販売、https://jammin.co.jp/）

【物資の寄付】

UBS グループ（食品、衣類、日用品など）／認定 NPO 法人フードバンク関西（食品）／生活協同組合コープこうべ（食品）／損害保険ジャパン株式会社京滋自動車営業部（食品）／小林製薬株式会社（カイロ）／一八亭（食品）／千代田工販株式会社（カイロ）／特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会（食品）／大阪府済生会中津病院（衣類）／カラオケ喫茶伊織里（衣類、衛生用品）／株式会社ギャップコーポレーション（カイロ）／公益社団法人日本臓器移植ネットワーク（カイロ、その他）／ジョリコエンタープライズ日本支店（衣類）／有限会社佐渡製作所（衣類）／一般社団法人日本サステナブルサロン協会（タオル）／株式会社ビーニーポッド（衣類）／ピープルツリーフェアトレードカンパニー（株）（食品）／はりねずみのハリー鍼灸院（日用品）

企業からいただいた物品寄付

【各地のサポーター組織】

ビッグイシューさっぽろ／仙台ビッグイシューソサイエティ／ NPO 法人仙台夜まわりグループ／ NPO 法人萌友（仙台）／木曜パトロールの会（横浜）／ビッグイシュー販売立川グループ／真宗大谷派聞善寺（金沢市）／ビッグイシュー名古屋ネット／ NPO 法人釜ヶ崎支援機構／ビッグイシュー日本京都事務所（一般社団法人関西厚生協会）／ NPO 法人岡山きずな／ビッグイシュー福岡サポーターズ／ビッグイシューくまもとチーム／ビッグイシューかごしまサポーターズ

【その他】

グーグル株式会社／株式会社セールスフォース・ドットコム／ Dropbox, Inc. ／ Slack

決算報告

第 16 期の市民応援会費、寄付、助成金などの経常収益は 1 億 759 万円となりました。これは、多くのみなさんからの継続寄付に加えて、法人から 4000 万円弱の高額寄付を受け入れたためです。この結果、今期の正味財産増減額は 3983 万円となり、前 15 期の繰越金 1 億 961 万円をあわせ、1 億 4944 万円の剰余金を計上しました。みなさんのあたたかいご支援・ご参加によって、今年度も活動を広げ、深めることができました。次年度への繰越金は、新しい仕事づくりの実験事業や、大阪の事務所移転を兼ねた市民交流サロン創設の実現などに活用します。

【活動計算書　2022年9月1日～2023年8月31日まで】

科　目	金額（単位：円）	
Ⅰ　経常収益		
1．受取会費		
正会員受取会費	130,000	
賛助会員受取会費	10,995,000	11,125,000
2．受取寄付金		
受取寄付金	95,581,613	95,581,613
3．受取助成金等		
受取助成金	331,880	331,880
4．事業収益		
生活自立応援事業収益	142,950	
政策提案事業収益	325,000	467,950
5．その他収益		
受取利息	903	
雑収益	82,187	83,090
経常収益　計		107,589,533
Ⅱ　経常費用		
1．事業費		
人件費		
給料手当	17,438,009	
臨時雇賃金	2,323,975	
法定福利費	3,110,174	
通勤費	1,156,208	24,028,366
その他経費		
業務委託費	2,050,000	
諸謝金	771,250	
印刷製本費	329,024	
会議費	405,633	
旅費交通費	1,275,770	
通信運搬費	2,954,046	
消耗品費	3,475,086	
家賃（光熱費含）	3,474,065	
賃借料	2,909,736	
保険料	54,270	
諸会費	50,000	
租税公課	6,100	
研修費	105,079	
広報費	3,110,400	
会報費	4,116,240	
寄付金	180,000	
支払手数料	1,181,892	
入居初期費用支援金	1,560,888	
家賃補助支援金	9,956,424	
雑費	526,819	38,492,722
事業費　計		62,521,088
2．管理費		
人件費		
役員報酬	1,800,000	
給料手当	703,200	
法定福利費	130,739	
通勤費	42,952	
福利厚生費	115,840	2,792,731
その他経費		
印刷製本費	147,242	
会議費	2,487	
旅費交通費	1,365	
通信運搬費	602,757	
消耗品費	118,221	
家賃（光熱費含）	182,846	
賃借料	170,060	
諸会費	39,600	
租税公課	2,000	
研修費	5,220	
支払手数料	1,026,128	
支払利息	3,585	2,301,511
管理費　計		5,094,242
経常費用　計		67,615,330
当期経常増減額		39,974,203
Ⅲ　経常外収益		
経常外収益計		0
Ⅳ　経常外費用		
経常外費用　計		0
税引前当期正味財産増減額		39,974,203
法人税、住民税及び事業税		140,000
当期正味財産増減額		39,834,203
前期正味財産額		109,609,170
次期正味財産額		149,443,373

【貸借対照表　2023 年8月 31 日現在】

科　目	金額（単位：円）		
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	152,036,616		
未収金	295,000	152,331,616	
2. 固定資産			
敷金	53,000	53,000	
資産合計			152,384,616
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
仮受金	914,741		
未払金	921,930		
預り金	82,972		
当事者預り金	1,021,600	2,941,243	
2. 固定負債			
		0	
負債合計			2,941,243
Ⅲ　正味財産の部			
前期繰越正味財産		109,609,170	
当期正味財産増減額		39,834,203	
正味財産合計			149,443,373
負債及び正味財産合計			152,384,616

【財産目録　2023 年8月 31 日現在】

科目・摘要	金額（単位：円）		
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手元現金	903,567		
普通預金（三菱UFJ銀行堂島支店）	122,553,267		
普通預金（三菱UFJ銀行新宿支店）	750,000		
郵便振替	18,364,255		
普通預金（ゆうちょ銀行）	2,759,729		
普通預金（三井住友銀行）	3,164,909		
普通預金（みずほ銀行）	264,851		
普通預金（楽天銀行）	3,276,038		
未収金			
賛助会員受取会費未収金（カード利用）	295,000		
		152,331,616	
2. 固定資産			
敷金（東京シェルター）	53,000	53,000	
資産合計			152,384,616
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
仮受金（㈲ビッグイシュー日本）	914,741		
未払金（KDDI、パソコン救急サービス他）	921,930		
預り金（源泉所得税、外注所得税）	82,972		
当事者預り金（生活自立積立金）	1,021,600		
		2,941,243	
2. 固定負債			
		0	
負債合計			2,941,243
正味財産			149,443,373

【計算書類の注記】

1、重要な会計方針

計算書類の作成は、ＮＰＯ法人会計基準によっています。

（1）消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。なお、当法人は消費税免税事業者です。

（2）事業費管理費共通経費の按分

共通経費は業務の従事割合によって按分しています。

2、事業費の内訳

事業費内訳	生活自立応援事業			ホームレス問題等社会問題解決のための政策提案事業			活動への当事者や市民の参加応援事業	事業費計
	生活自立応援	就業応援	スポーツ・文化活動応援	若者応援と新しい仕事づくり	住宅政策提案	ギャンブル依存症問題		
人件費								
給料手当	13,047,866	380,760	695,580	865,521	847,761	721,521	879,000	17,438,009
臨時雇賃金	1,953,014	0	108,801	0	0	0	262,160	2,323,975
法定福利費	2,291,478	70,392	148,242	155,493	152,783	130,900	160,886	3,110,174
通勤費	867,123	23,038	35,950	56,807	54,585	47,192	71,513	1,156,208
人件費計	18,159,481	474,190	988,573	1,077,821	1,055,129	899,613	1,373,559	24,028,366
その他経費								
業務委託費	850,000	0	0	1,200,000	0	0	0	2,050,000
諸謝金	720,000	0	0	0	51,250	0	0	771,250
印刷製本費	228,550	0	180	9,990	71,800	0	18,504	329,024
会議費	304,378	3,700	78,343	1,836	17,376	0	0	405,633
旅費交通費	596,254	11,700	473,605	74,356	43,552	75,143	1,160	1,275,770
通信運搬費	184,294	0	3,580	0	29,090	0	2,737,082	2,954,046
消耗品費	1,376,092	0	16,918	0	1,738,736	980	342,360	3,475,086
家賃（光熱費含）	2,523,269	109,708	146,276	146,276	146,276	146,276	255,984	3,474,065
賃借料	2,016,993	1,430	193,433	1,000	696,880	0	0	2,909,736
保険料	24,880	0	10,750	0	18,640	0	0	54,270
諸会費	40,000	0	0	0	0	0	10,000	50,000
租税公課	6,100	0	0	0	0	0	0	6,100
研修費	15,734	0	0	0	29,380	59,965	0	105,079
広報費	0	0	0	0	0	0	3,110,400	3,110,400
会報費	0	0	0	0	0	0	4,116,240	4,116,240
寄付金	180,000	0	0	0	0	0	0	180,000
支払手数料	189,113	0	3,313	0	24,456	73,774	891,236	1,181,892
入居初期費用支援金	1,560,888	0	0	0	0	0	0	1,560,888
家賃補助支援	9,956,424	0	0	0	0	0	0	9,956,424
雑費	479,534	5,000	16,650	0	25,635	0	0	526,819
その他経費計	21,252,503	131,538	943,048	1,433,458	2,893,071	356,138	11,482,966	38,492,722
事業費計	39,411,984	605,728	1,931,621	2,511,279	3,948,200	1,255,751	12,856,525	62,521,088

3、当事者預り金の内訳

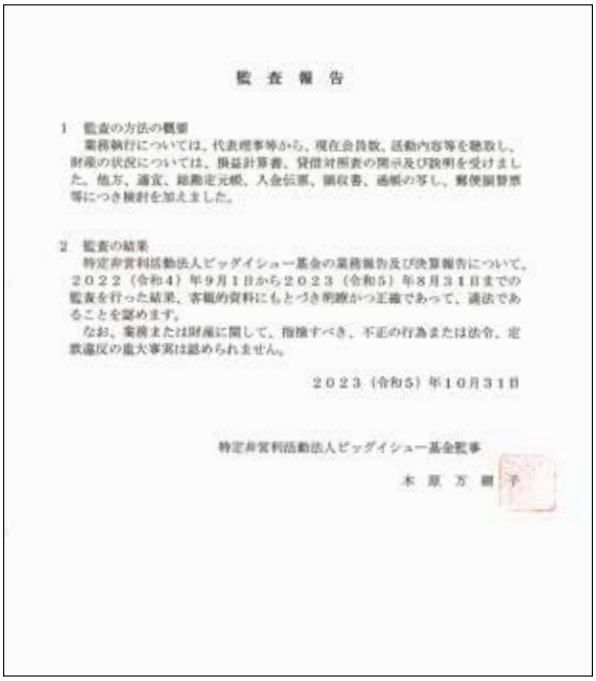
内容	期首残高	当期増減	期末残高
生活自立積立金	838,100	183,500	1,021,600
合計	838,100	183,500	1,021,600

4、役員及びその近親者との取引

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
家賃（光熱費含）	3,656,911	3,656,911
広報費	3,110,400	3,110,400
会報費	4,116,240	4,116,240

5、長期借入金の増減内訳

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
長期借入金	609,000	0	609,000	0
合計	609,000	0	609,000	0



監 査 報 告

1　監査の方法の概要

業務執行については、代表理事等から、現在会員数、活動内容等を聴取し、財産の状況については、損益計算書、貸借対照表の開示及び説明を受けました。他方、通帳、総勘定元帳、入金伝票、領収書、通帳の写し、郵便振替票等につき検討を加えました。

2　監査の結果

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金の業務報告及び決算報告について、２０２２（令和４）年９月１日から２０２３（令和５）年８月３１日までの監査を行った結果、客観的資料にもとづき明瞭かつ正確であって、適法であることを認めます。

なお、業務または財産に関して、指摘すべき、不正の行為または法令、定款違反の重大事実は認められません。

２０２３（令和５）年１０月３１日

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金監事

木 原 万 樹 子

社会を変えるのはあなたの寄付です――会員・寄付の制度について

ビッグイシュー基金は認定ＮＰＯ法人です。ご寄付をいただくと、納められた所得税から寄付額の４割弱が返金されます（返金の上限額は納付所得税の 25%まで）。これは、公のことはすべて国が税で賄うという建前を変え、公を認定ＮＰＯ法人にも担ってもらい、その分、税の一部を返金する、という仕組みです。公共の仕事を「税＝国家」でするのか？「寄付＝ＮＰＯ」でするのか？を選んで決めるのは、納税し寄付するあなたです。市民の寄付で社会を変える活動に、あなたも参加しませんか。

メニュー寄付

税制優遇の対象。「(寄付金合計額 - 2千円) × 40%」が税額から控除できます（確定申告が必要）。

出会い寄付
5,000 円 / 1口（返金額は 1,200 円）

社会包摂マラソン寄付
50,000 円 / 1口（返金額は 19,200 円）

つながりウォーク寄付
10,000 円 / 1口（返金額は 3,200 円）

市民信頼社会寄付
100,000円 / 1口（返金額は 39,200円）

実践応援ラン寄付
20,000 円 / 1口（返金額は 7,200 円）

- **任意額寄付**　事務手続き上 1,000 円からの受付となります。
- **マンスリー寄付**　月額 1,000 円× 1口～。（HP から受け付けています）
- **法人寄付**　損金算入限度額の枠が拡大されます。

＊雑誌送付などの特典はありません。毎月発行のニュースレター、年次報告書（年１回）をお送りします。

遺贈・相続財産の寄付

寄付された相続財産には相続税がかかりません。

税制優遇を受けられる認定ＮＰＯになって 11 年の間に、24 人の方から相続税が免除される遺贈・遺産寄付をお預かりし、活用させていただいています（2023 年８月末現在）。

＊遺贈、相続財産の寄付をお考えの時には、お気軽に電話（06-6345-1517）・E メール（info@bigissue.or.jp）でご連絡ください。当基金の顧問弁護士へのご相談（無料）も可能です。

市民応援会員

特典があります（税制優遇はありません）。

にっこり応援会員
年会費：15,000 円（誌代相当分を含む）
【特典】『ビッグイシュー日本版』を１年分 24 回毎号送付＆雑誌の「基金通信」最新号にお名前を掲載、年次報告書の送付（年１回）ほか

ひとり立ち応援会員
年会費：50,000 円（誌代相当分を含む）
【特典】『ビッグイシュー日本版』を１年分 24 回毎号送付＆雑誌の「基金通信」に１年間お名前を掲載 、年次報告書の送付（年１回）、パーティにペアでご招待（年１回）ほか

企業・団体「社会再生サポーター」

特典があります（税制優遇はありません）。

●キャリア再形成・サポーター会員　年会費：250,000 円　●社会復帰・サポーター会員　年会費：500,000 円　●社会再生・サポーター会員　年会費：1,000,000 円

＊『ビッグイシュー日本版』１冊を１年分 24 回送付、雑誌に１年間お名前掲載などの特典があります（年会費に誌代相当分を含みます）。

＜郵便振替での振込み＞　口座番号　00960-6-141876　口座名義　NPO 法人ビッグイシュー基金
お振込みの際は寄付･会員の別、連絡先（お名前、郵便番号、ご住所、電話番号）を明記ください。

＜銀行振込み・クレジットカード＞
ビッグイシュー基金のホームページ（https://bigissue.or.jp/）からご利用いただけます。

※個人の方のご寄付の領収書は１月～ 12 月入金分をまとめて翌年１月下旬頃に発行・送付させていただきます（これを、確定申告時に提出していただくと納付税額から寄付額の４割弱が返金されます）。

ビッグイシュー基金は、有限会社ビッグイシュー日本（※）を母体に 2007 年９月に設立した、ホームレス状態の人々の自立を応援する非営利団体です。ビッグイシュー基金は、①ホームレス状態の人、生活困窮者の自活・自立応援、②貧困問題解決のネットワークづくりと政策提案、③市民のボランティアや寄付参加、の３つを活動の柱に据え、貧困と社会的排除の極北にあるホームレス問題を軸に、貧困問題の解決に取り組みます。それらを通して市民、ホームレス状態の人、困窮した人とともに誰もが生きやすい包摂社会の形成をめざします。

団体概要

□ 名　　称　認定 NPO 法人　ビッグイシュー基金

□ 設　　立　2007 年９月設立、08 年４月ＮＰＯ法人の認証、12 年７月国税庁、17 年３月大阪府認定ＮＰＯ法人格取得、22 年３月認定更新

□ 所 在 地　［大阪事務所］〒 530-0003 大阪府大阪市北区堂島２丁目3-2 堂北ビル４階
TEL：06-6345-1517　FAX：06-6457-1358
［東京事務所］〒 162-0811 東京都新宿区水道町４-28 JC 江戸川橋ビル２階
TEL：03-6380-5088　FAX：03-6802-6074
E-mail：info@bigissue.or.jp　URL：https://bigissue.or.jp/

□ 役　　員　共同代表　米本 昌平（東京大学客員教授）
稲葉 剛（立教大学大学院客員教授／一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事）
枝元 なほみ（料理研究家）
理　事　高野 太一（ビッグイシュー基金事務局長）
蛭間 芳樹（野武士ジャパンコーチ／世界経済フォーラム ヤング・グローバル・リーダー 2015）
水越 洋子（『ビッグイシュー日本版』編集長）
監　事　木原 万樹子（木原法律事務所弁護士）
相談役　雨宮 処凛（作家）

□ スタッフ　高野 太一　粟原 奈津子　野村 拓馬　粟原 侑子　佐野 ハナ　西郷 和将
三井 泰平　真下 梨沙　中村 優太　小野 阿津美　宮崎 泰代

（※）有限会社ビッグイシュー日本とは？

ビッグイシュー日本は、「ホームレスの人々の救済ではなく仕事を提供し、自立を応援する」ことを目的に活動する社会的企業です。質の高い雑誌をつくり、ホームレス状態や貧困状態にある人の独占販売事業とし、その売上の50%以上を収入にしてもらうという仕組みをもっています。2003 年９月の設立から 2023 年３月までに 2031 人が販売者に登録し、206 人が仕事を得て自立しました。また累計 969 万冊の雑誌を販売し、15 億 5272 万円の収入をホームレスの人たちに提供してきました。同誌は 2023 年９月に創刊 20 周年を迎えました。

ビッグイシュー基金の最新の活動は、公式 HP よりご覧いただけます。

NPO 法人ビッグイシュー基金
公式 HP：https://bigissue.or.jp/

【表紙写真】

1：「定例サロン」の様子（東京）
2：『おうちプロジェクト報告書』『路上脱出・生活SOSガイド』東京 23 区編
3：健康相談会の様子（東京）
4：ビッグイシュー講談部（大阪）
5：一時居所「あまやどりハウス」利用者 S さんのキッチン（大阪）
6：「家庭菜園部」で野外散策（東京）

第 16 期 年次報告書

2023 年 11 月 30 日発行

認定NPO法人ビッグイシュー基金

（大阪事務所）〒 530-0003 大阪府大阪市北区堂島2丁目3-2 堂北ビル4階
TEL：06-6345-1517　FAX：06-6457-1358
（東京事務所）〒 162-0811 東京都新宿区水道町4-28 JC 江戸川橋ビル2階
TEL：03-6380-5088　FAX：03-6802-6074
E-mail：info@bigissue.or.jp
URL：https://bigissue.or.jp/

編集：中村未絵

デザイン：新デ制作室